

分類 番号	A7	取組 名称	脂肪肝疾患に対する京野菜を活用した食事改善効果に関する研究
研究代表者：	生命環境科学研究科	職・氏名：	助教・小林 ゆき子
研究担当者：	京都府立大学（小林ゆき子、和田小依里） 外部分担者・協力者（城田浩治氏、谷美智代氏、角田圭雄氏、笹井由起子氏）		
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）	京都府農林水産技術センター・園芸部 京都府立医科大学・消化器内科学 京都府立医科大学附属病院・栄養管理部		
【研究活動の要約】	<p>脂肪性肝疾患は、病態が進行すると肝硬変や肝がんを発症することが明らかになっており、その患者数の増大は京都府においても例外ではなく、医療費圧迫につながる地域的課題となりつつあります。脂肪肝の治療は投薬だけではなく体重減少が有効です。私たちのこれまでの調査で脂肪肝患者は野菜摂取量が極端に少ないとの知見を得たため、野菜摂取量が増えると食事の総エネルギーが減少し、体重減少によって病態改善することが予想されました。本研究課題では、患者の治療に直結させる食生活改善策として、京野菜を“活かした教育媒体”として活用した食生活改善システムの確立を目的としました。</p> <p>研究計画として、府立医科大学附属病院に通院中の脂肪肝患者で同意が得られた方を対象に、定期的な診察や個別対応の栄養指導の受診に加えて、2週に1回の頻度で1kg程度の京野菜と野菜摂取を応援するニュースレターを送付し、6ヶ月間の栄養学的介入を行いました。</p> <p>なお、本研究は京都府立大学および京都府立医科大学の倫理審査を受け承認されています。</p>		
【研究活動の成果】	<p>本研究は平成28年度から2年間の計画で採択され介入試験を進めているところです。現在の研究参加者は17名で、随時新規参加者を募っています。すべての方が介入継続中のために結果解析にはまだ時間を要しますが、介入が3ヶ月に達した参加者にアンケートを実施したところ、85%の方が研究参加前に比べて野菜を多く購入するようになったと回答されました。今後も引き続き研究を継続することで、京都府の脂肪肝患者に対する食生活改善システムの構築に向けて成果が得られると考えています。</p>		
【研究成果の還元】	<p>学会発表4件          ・「非アルコール性脂肪性肝疾患に対する野菜摂取を動機付けとした栄養介入試験。」第20回病態栄養学会年次学術集会，国立京都国際会館（2017/1/15）          他3件</p>		
【お問い合わせ先】	生命環境科学研究科	栄養科学研究室	助教・小林 ゆき子
	Tel: 075-703-6017	E-mail: yukicoba@kpu.ac.jp	

参考（イメージ図、活動写真等）

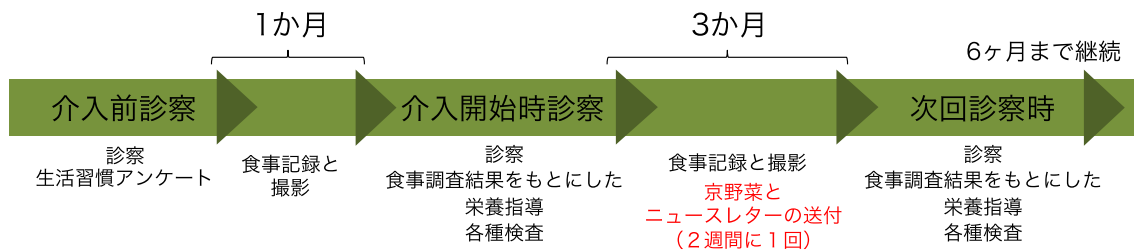


図1. 介入試験プロトコル

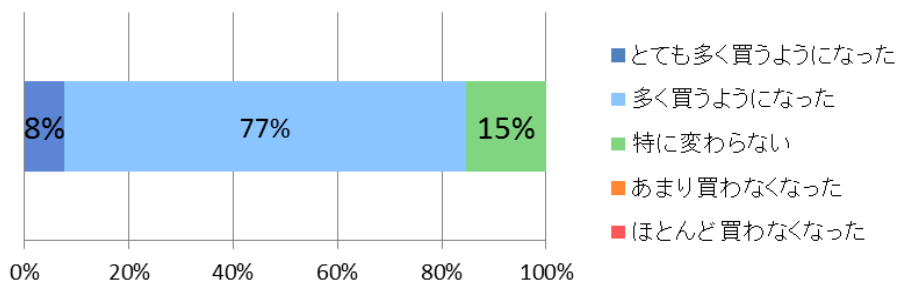


図2. アンケート結果（介入3ヶ月時、n = 13）

「研究に参加する前と比べて野菜を多く買うようになりましたか？」に対する回答

表1. これまでの野菜送付リスト

2016年8月	賀茂なす、万願寺とうがらし、ピーマン
2016年9月	賀茂なす、万願寺とうがらし、さつまいも
2016年10月	賀茂なす、きゅうり、さつまいも、紫ずきん、ブロッコリー
2016年11月	きゅうり、キャベツ、えびいも、万願寺とうがらし、にんじん、ブロッコリー、はくさい
2016年12月	キャベツ、ほうれんそう、トマト、ブロッコリー、金時にんじん、頭いも
2017年1月	ほうれんそう、こまつな、はくさい、セロリ菜、金時にんじん、大根、にんじん、水菜
2017年2月	大根、畑菜、水菜、はくさい、金時にんじん、ほうれんそう、サニーレタス、小芋、芽キャベツ